
2006年3月期決算説明会

石油資源開発株式会社

2006年5月16日

注意事項

本資料に掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、その他歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しを示したものです。実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。

Copyright: 本資料に含まれるすべての内容に関する著作権は、当社が有しています。事前の承諾なく、これらの内容を複製もしくは転載することはお控えください。

本資料に関するお問い合わせ、その他IRに関するご質問は、以下にお願いいたします。

石油資源開発株式会社企画室IRグループ 電話03-5461-7481

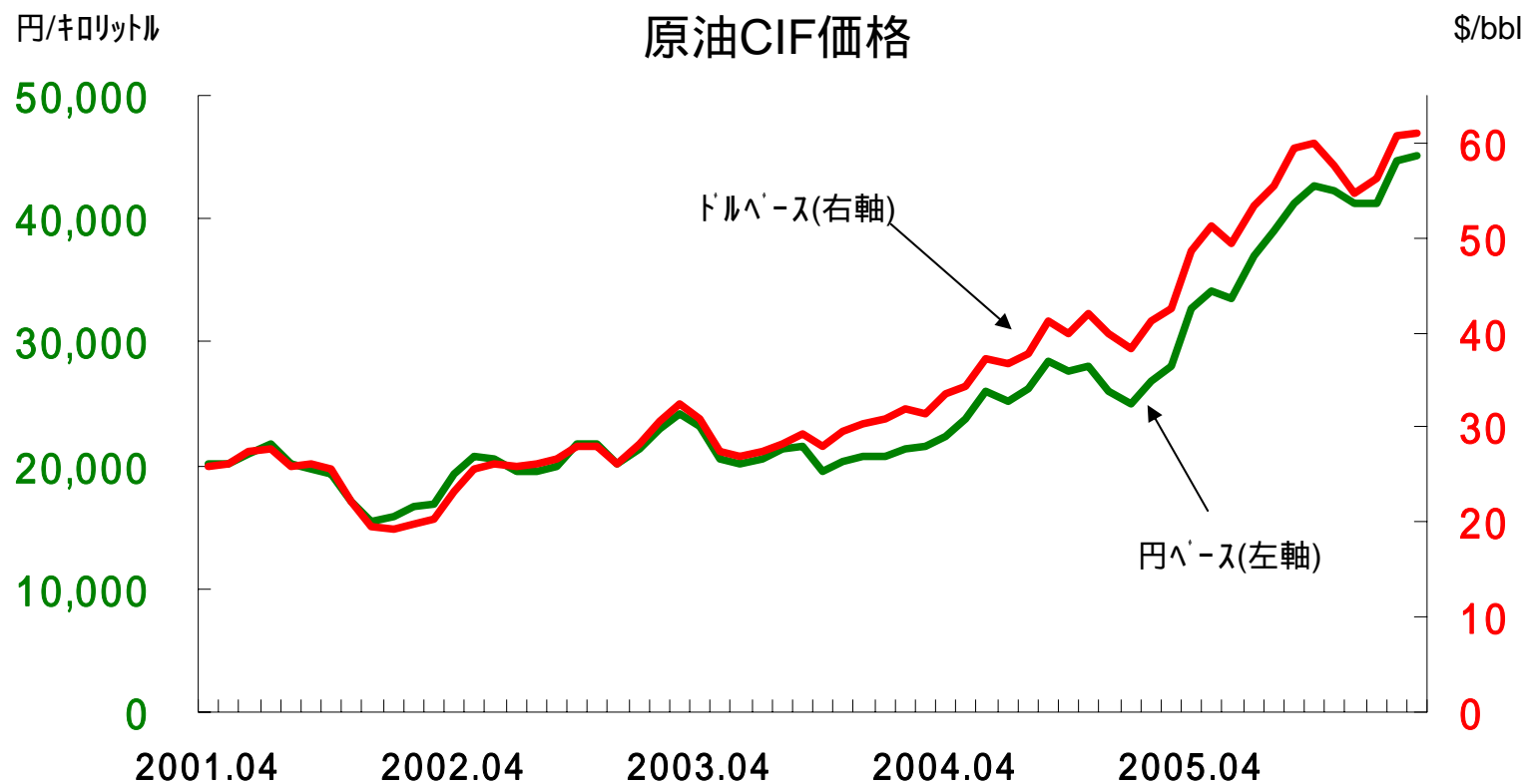
目次

1. 事業の概況
代表取締役社長 棚橋 祐治
2. 2006年3月期決算の概要
常務執行役員 佐藤 弘
3. 2007年3月期業績見通しの概要
常務執行役員 佐藤 弘

事業の概況

代表取締役社長 棚橋 祐治

原油価格の動き



- 原油CIF価格の高止まり続く
- 2006年4月上旬の円建てCIF価格(速報値)は、45,104円/キロリットル
- 2006年4月上旬のドル建てCIF価格(速報値)は、61.19ドル/bbl

06/3期実績および07/3期見通し概要

単位:百万円

	2005/3(a)	2006/3(a)	2007/3(e)	06/3-07/3増減
売上高	103,150	138,796	123,910	14,886
経常利益	19,001	31,190	24,920	6,270
当期純利益	13,234	20,216	17,242	2,975

06/3期実績

- 売上高、経常利益、当期純利益は過去最高
- 原油CIF価格は、前期比+42%上昇し\$54.10/bbl
- 天然ガス販売も好調に推移し、前期比+11%増加し1,413百万立方メートル
- 国内探鉱は、「東新潟MS-45, 46」、「岩船沖西MS-1」、「沼ノ端(T1)東SK-1D」で成功

07/3期予想

- 原油CIF価格前提は、\$60.00/bbl
- 権益原油および国産天然ガス販売はやや減少および探鉱費の減少を見込むが、販管費の増加により、減収減益

07/3期事業計画の概要

➤ 国内探鉱

- コスト競争力の強い国産ガス埋蔵量の拡大に注力
- 既存油ガス田周辺でのフィールドグロースと大規模埋蔵量の発見を目指した探鉱を効率的に実施

➤ ガス事業

- 天然ガスは、優れた環境特性および原油価格の高騰を受け、需要は増加傾向にある
- 既存パイプライン沿線における拡販の強化
- 07年3月、白石・郡山間パイプライン操業開始を踏まえ、新規需要家開拓に注力
- 仙台・いわき間海底パイプラインの実現に向け、関係先との協議および調査を開始

➤ 海外事業

- 既存プロジェクトでは、効率的な探鉱開発を推進し、権益価値最大化を図る
- 中東、北アフリカ、東南アジア等の重点地域において新規権益の獲得を目指す

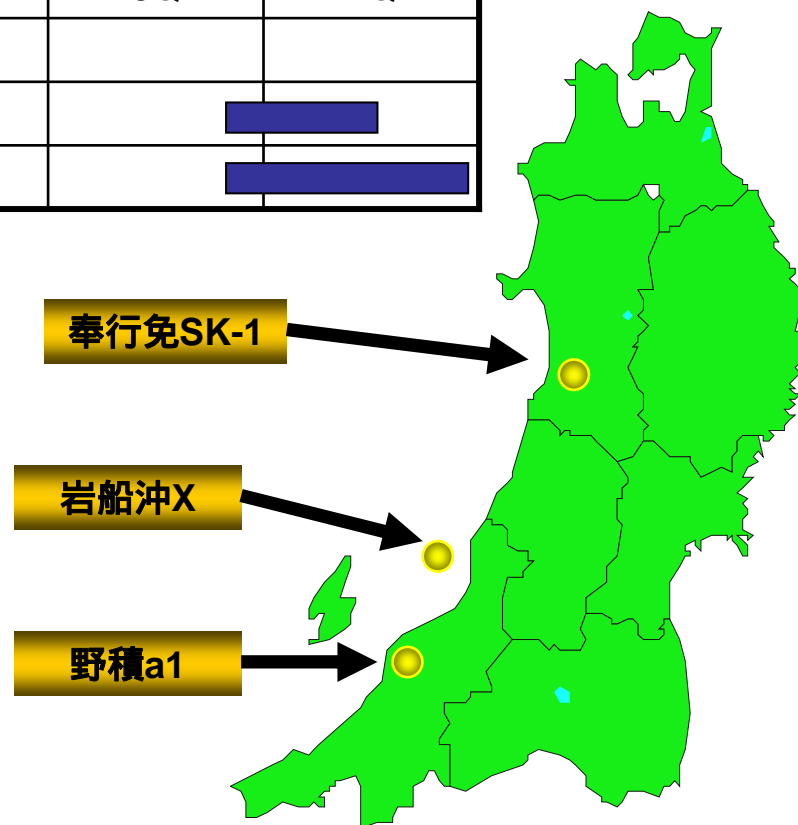
07/3期国内探鉱計画

試掘井掘削スケジュール

		掘削 深度	07/3期			
			1Q	2Q	3Q	4Q
試掘	奉行免SK-1	2,000m	■			
試掘	野積a1	2,550m				■
試掘	岩船沖X	3,850m				■

物理探鉱計画

- 北海道、秋田、新潟で、2D震探138km
- 勇払地域で、3D震探140km²



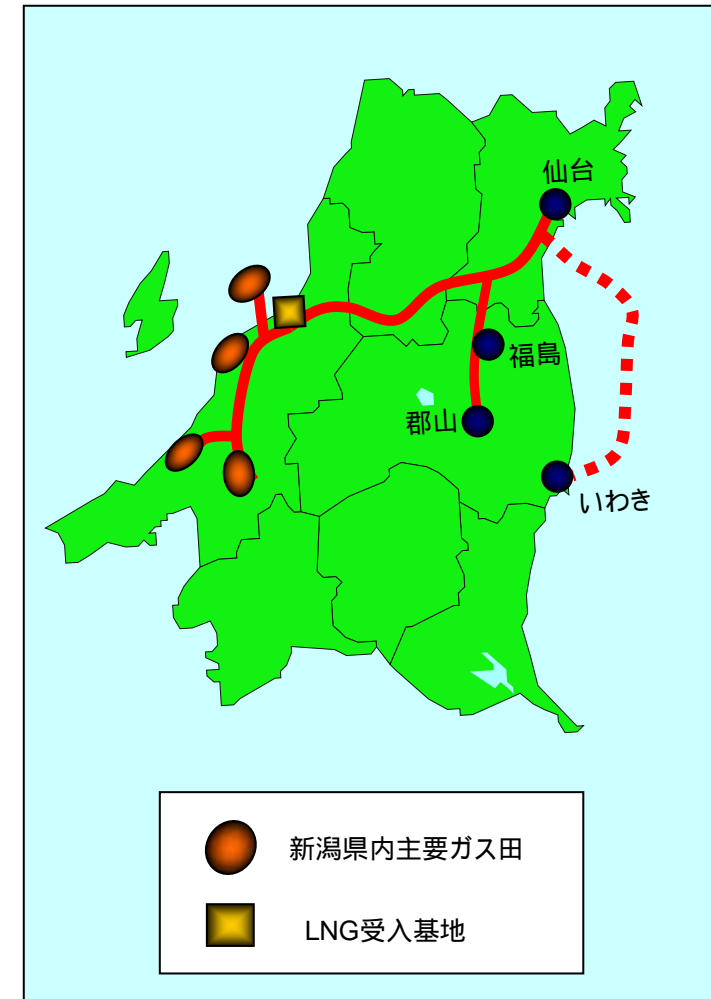
新規ガスパイプライン建設

白石・郡山間パイプライン概要

- 延長:95km
- 口径:16インチ(406mm)
- 設計圧力:6.86MPa
- 操業開始:07年3月
- 需要先:福島ガス(株)、東部ガス(株)福島支社およびパイプライン沿線の産業用需要家(福島県内陸部の需要家)

仙台・いわき間海底パイプライン建設計画概要

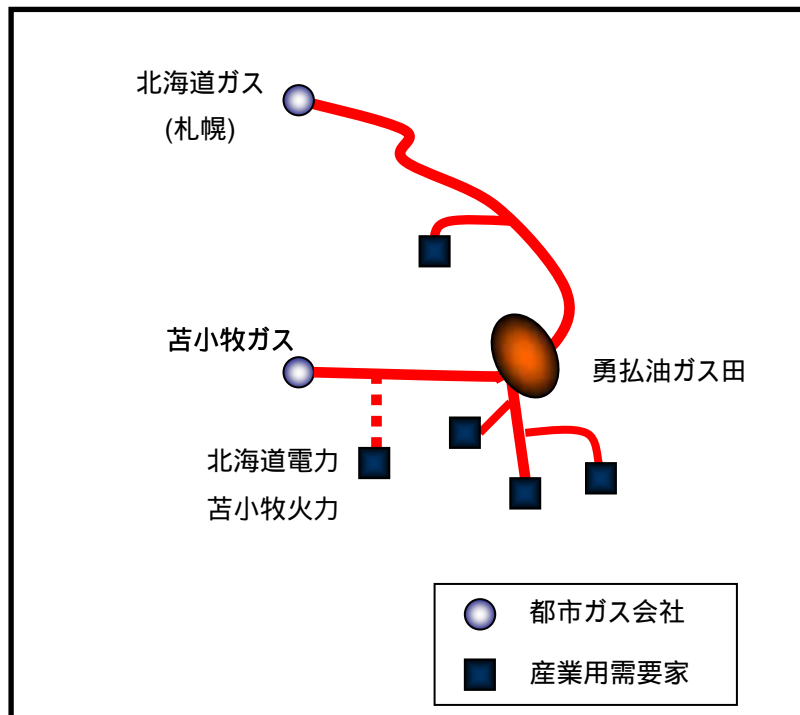
- 延長:約160km
- 口径:20-24インチ(508-609mm)
- 設計圧力:21MPa
- 予定工期:2008年着工、2011年初頭操業開始
- 需要先:いわき市およびその周辺部の産業用・民生用需要家(福島県南部沿岸地域の需要家)



北海道でのガス拡販への取り組み

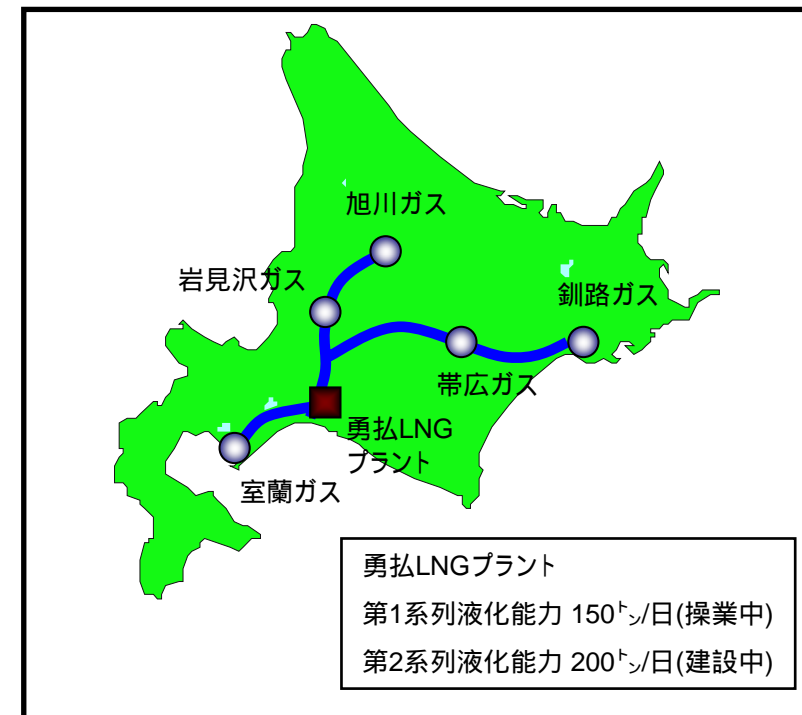
➤ パイプラインによるガス販売

- 既存需要家への増販
- パイプライン沿線需要の開拓



➤ LNGサテライト販売

- 勇払LNGプラントより道内パイプライン未整備地域の都市ガス会社向けに順次供給を開始



07/3期設備投資計画

単位:億円

	06/3期(a)	07/3期(e)
設備投資額	210	257
減価償却費	139	153

生産能力およびパイプライン輸送能力増強に向けて積極的投資を継続

主な設備投資項目/スケジュール	Q1	Q2	Q3	Q4	備考
採掘井あけぼのB2(勇払油ガス田)	■				
採掘井片貝J'2(片貝ガス田)				■	来期継続
勇払鉱場生産設備増強	■				
勇払LNG第2系列建設	■				来期継続
白石・郡山間パイプライン	■				
既存生産設備の更新投資等	■				

海外事業 重点地域

カナダ

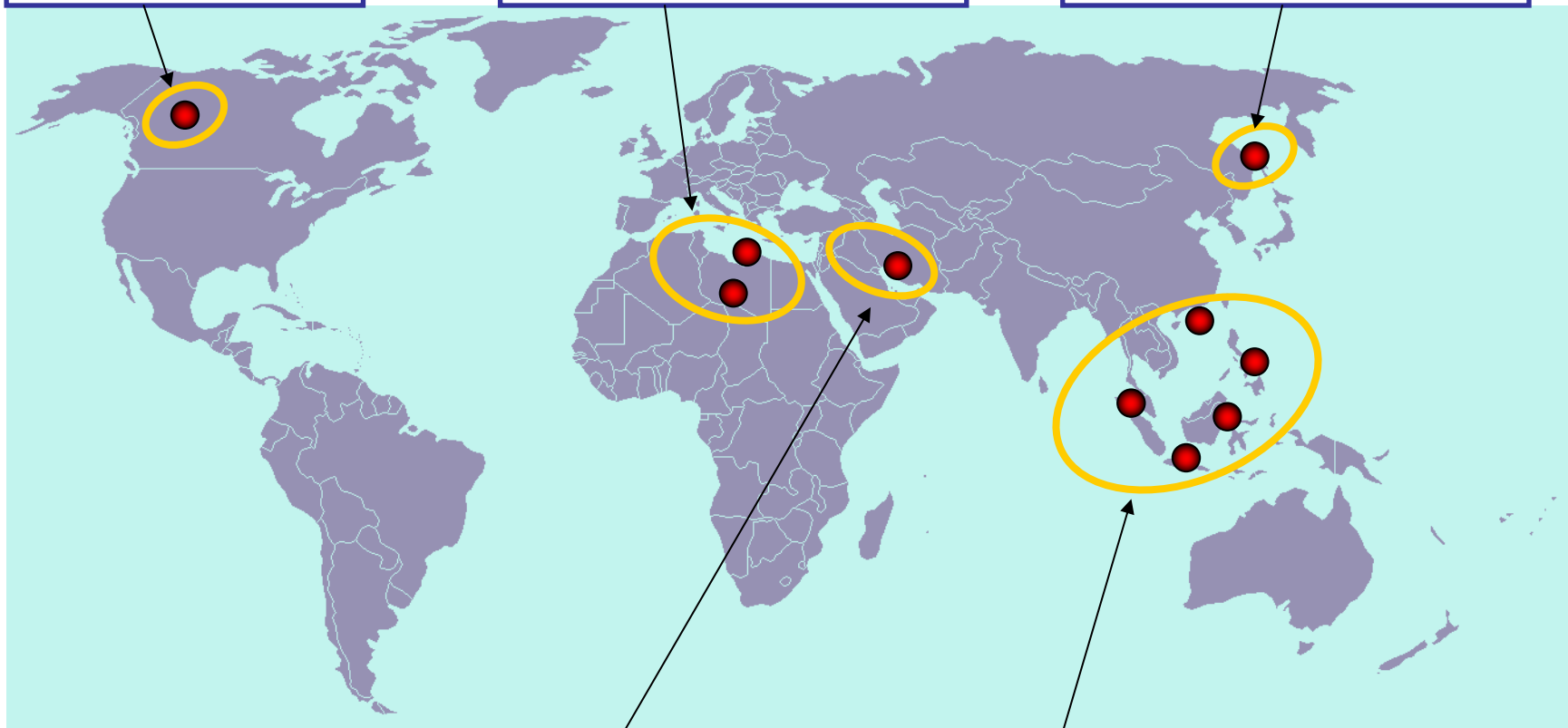
オイルサンド事業の
収益源化を目指す

北アフリカ

リビアでの2鉱区権益取得に
続き新規権益獲得を目指す

サハリン

サハリン1プロジェクトの
価値最大化に取り組む



連結子会社および持
分法関連会社等が権
益を保有する鉱区

中東

JJI S&N社本格生産に移行。
イラク石油省との技術協力も推進

東南アジア

インドネシアA鉱区権益取得に
続き新規権益獲得を目指す

海外プロジェクト(1)

新南海石油開発

- 権益比率： 30%
- Lufeng 13-1油田は、06年4月現在、11,000bbl/d(gross)で生産中
- 今期、開発井2坑程度掘削し、生産量の維持を図る



Lufeng13-1プラットフォーム

サハリン石油ガス開発(SODECO)

- 権益比率： 30%
- SODECOへの出資比率： 14.46%
- チャイウォ油ガス田は、06年4月現在、原油50,000bbl/d(gross)、ガス92MMcfd(260万立方メートル/d)(gross)で生産中
- 海外向け原油販売は、06年央に開始予定

海外プロジェクト(2)

カナダオイルサンド

- 現法Japan Canada Oil Sands Ltd. (JACOS)を通じてオイルサンド開発
- Hangingstone 3.75 鉱区 権益比率: 100%
- 06年4月現在8,500bbl/d(gross)で生産中
- 8,000-9,000bbl/d規模の生産を継続
- 未開発鉱区の地質評価作業開始



JACOS Hangingstone 3.75 鉱区 操業現場

イラク石油省との技術協力

- 05年3月に締結した技術協力覚書を1年間延長(07年3月まで)
- 昨年度実績
 - 未開発油田の評価作業
 - 探鉱ポテンシャルの評価作業
 - 3D地震探鉱に関する技術支援
 - 石油技術者への教育訓練
- 今期
 - バグダッド近郊油田に係る評価作業
 - 原油軽質化技術および増産手段の検討
 - 石油技術者への教育訓練

海外プロジェクト(3)

ジャペックスリビア

- 40-3/4鉦区(地中海沿岸部海上)
 - 権益比率: 42%
 - 今期、2D・3D地震探鉦データ取得予定

- 176-4鉦区(陸上ムルズク地域)
 - 権益比率: 100%
 - 今期、地震探鉦データ取得に向けた準備作業実施予定

スマトラ島陸上A鉦区の取得

- 06年4月26日、当社は、Premier OilおよびMedcoと共同(各社3分の1)でA鉦区に50%の権益を保有するExxonMobil子会社を買収

- A鉦区概要
 - 鉦区面積: 1,803km²
 - PS契約: 2011年8月まで
 - 既発見未開発ガス田(Alur Siwa, Alur Rambong, Julu Rayeu)あり
 - 未試掘構造が複数存在

2006年3月期決算の概要

常務執行役員 佐藤 弘

06/3期決算サマリー

単位:百万円

	05/3期 通期(a)	06/3期			
		当初見通し 05/05/16発表	修正見通し 05/11/14発表	修正見通し 06/02/10発表	実績 06/05/15発表
売上高	103,150	96,897	122,224	132,709	138,796
経常利益	19,001	18,630	25,028	29,661	31,190
当期純利益	13,234	13,615	16,476	19,169	20,216

当初見通し 修正見通し

- ✓ 原油CIF価格見通しを上方修正(\$42/bblから\$52/bbl)
- ✓ ガス販売見通しを上方修正(当初見通し比+4.2%)

修正見通し 修正見通し

- ✓ 原油CIF価格見通しを再度上方修正(\$52/bblから\$53.50/bbl)
- ✓ ガス販売見通しを再度上方修正(修正見通し 比+5%)

修正見通し 実績

- ✓ 原油CIF価格は\$54.10/bbl(修正見通し 比+\$0.60/bbl)
- ✓ ガス販売は1,413百万立方メートル(修正見通し 比+7百万立方メートル)

06/3期原油販売実績

	04/3期 通期(a)	05/3期 通期(a)	06/3期 通期(a)	増減 前年同期比
原油販売量(千kl)	1,528	1,380	1,934	+554
原油売上高(百万円)	32,963	38,211	67,711	+29,500
原油CIF価格(\$/bbl)	29.37	38.18	54.10	+15.92
為替(Yen/\$)	113.71	107.26	112.44	+5.18

権益原油の内訳	04/3期 通期(a)	05/3期 通期(a)	06/3期 通期(a)	増減 前年同期比
国産原油販売量(千kl)	606	584	634	+49
売上高(百万円)	12,784	15,217	24,709	+9,492
海外子会社原油販売量(千kl)	4	122	217	+94
売上高(百万円)	71	3,299	8,575	+5,275
ビチューメン販売量(千kl)	-	-	448	+448
売上高(百万円)	-	-	6,526	+6,526

本資料における「国産原油」の販売量及び売上高は、国内連結子会社1社(日本海洋石油資源開発(株))からの仕入販売分を含む、当社単体決算の数値を記載しています。また、「海外子会社原油」の販売量及び売上高は、海外連結子会社3社(新南海石油開発(株)、ジャワ石油(株)、Japex (U.S) Corp)の合計数値を記載しています。

06/3期天然ガス販売実績

	04/3期 通期(a)	05/3期 通期(a)	06/3期 通期(a)	増減 前年同期比
ガス販売量 (百万m ³)	1,296	1,276	1,413	+136
ガス売上高 (百万円)	42,560	39,867	43,539	+3,672
国産ガス販売量(百万m ³)	1,024	1,057	1,155	+98
国産ガス売上高(百万円)	33,813	32,750	35,170	+2,420

本資料における「国産天然ガス」の販売量及び売上高は、連結子会社日本海洋石油資源開発㈱からの仕入販売分を含む、当社単体決算の数値を記載しています。

- 北海道での需要の伸び
- 厳冬による都市ガス需要の伸び
- 電力向け販売の拡大



前年比で販売量が11%増加

06/3期損益変動要因

単位:百万円

	05/3 通期(a)	06/3 通期(a)	増減
売上高	103,150	138,796	+35,645
売上総利益	42,104	61,362	+19,258
探鉱費	6,127	9,677	+3,550
販管費	21,298	24,666	+3,368
営業利益	14,678	27,018	+12,339
営業外損益	4,323	4,172	150
経常利益	19,001	31,190	+12,189
特別損益	871	24	+847
法人税等	4,270	9,294	+5,024
少数株主利益	624	1,655	+1,031
当期純利益	13,234	20,216	+6,981

営業利益の主な増減要因

国産原油販売	+95億円
ガス販売	+37億円
原油ガス売上原価増	19億円
国内探鉱費増	28億円
海外探鉱費増	7億円
国内販管費増	11億円
海外連結子会社寄与	+46億円
(新南海石油)	+27億円
(ジャワ石油)	+18億円
国内連結子会社寄与	+10億円

増減要因の説明は、増益要因を+、減益要因を-で記載。

2007年3月期業績見通しの概要

常務執行役員 佐藤 弘

07/3期業績見通し

単位:百万円

	07/3期 1H(e)	07/3期 2H(e)	07/3期 通期(e)
売上高	55,216	68,694	123,910
売上総利益	25,015	32,497	57,512
探鉱費	3,639	5,681	9,320
販管費	14,463	13,334	27,797
営業利益	6,912	13,483	20,395
営業外損益	2,272	2,253	4,525
経常利益	9,185	15,735	24,920
特別損益	43	937	980
法人税等	2,023	3,666	5,689
少数株主利益	563	447	1,010
当期純利益	6,556	10,686	17,242

原油CIF価格、為替の前提

	中間(e)	通期(e)
原油CIF価格	\$60.00/bbl	\$60.0/bbl
為替	¥110.00/\$	¥110.00/\$

事業部門別売上構成

単位:百万円

	1H(e)	2H(e)	通期(e)
原油・天然ガス	47,688	55,960	103,648
請負事業	1,244	4,229	5,473
その他事業	6,284	8,506	14,790

探鉱費の内訳

単位:億円

	1H(e)	2H(e)	通期(e)
国内探鉱費	22	42	64
海外探鉱費	14	15	29

07/3期業績見通し - 前期比ポイント

単位:百万円

	06/3期		07/3期		増減	
	中間(a)	通期(a)	中間(e)	通期(e)	中間	通期
売上高	59,221	138,796	55,216	123,910	4,005	14,886
営業利益	8,461	27,018	6,912	20,395	1,550	6,623
経常利益	12,459	31,190	9,185	24,920	3,275	6,270
当期純利益	8,983	20,216	6,556	17,242	2,427	2,975

07/3期業績見通しのポイント

➤ 前期比減収減益

- 原油: 国産原油は油価上昇背景に増収を見込むが、海外原油は一部海外子会社契約終了により減収
- ガス: ガス販売は数量増により増収を見込むが、国産ガスは輸入LNG気化ガス増により数量減少を見込む
- 探鉱費は約3億円減少
- 販管費は、国内・海外の新規プロジェクト関連費用等の発生により増加

07/3期原油販売見通し

	06/3期		07/3期		増減	
	中間(a)	通期(a)	中間(e)	通期(e)	中間	通期
原油販売量(千kl)	913	1,934	788	1,554	126	381
原油売上高(百万円)	28,823	67,711	25,460	50,627	3,364	17,085
原油CIF価格(\$/bbl)	49.61	54.10	60.00	60.00	+10.39	+5.9
為替(Yen/\$)	107.99	112.44	110.00	110.00	+2.01	2.44

権益原油の内訳	06/3期		07/3期		増減	
	中間(a)	通期(a)	中間(e)	通期(e)	中間(a)	通期(a)
国産原油販売量(千kl)	295	634	274	615	22	19
売上高(百万円)	10,520	24,709	11,519	25,616	+998	+906
海外子会社原油販売量(千kl)	108	217	79	158	29	59
売上高(百万円)	4,380	8,575	3,593	6,678	787	1,898
ビチューメン販売量(千kl)	226	448	234	464	+8	+15
売上高(百万円)	2,231	6,526	3,419	6,825	+1,187	+299

本資料における「国産原油」の販売量及び売上高は、国内連結子会社1社(日本海洋石油資源開発(株))からの仕入販売分を含む、当社単体決算の数値を記載しています。また、「海外子会社原油」の販売量及び売上高は、海外連結子会社3社(新南海石油開発(株)、ジャワ石油(株)、Japex (U.S) Corp)の合計数値を記載しています。

07/3期天然ガス販売見通し

	06/3期		07/3期		増減	
	中間(a)	通期(a)	中間(e)	通期(e)	中間	通期
ガス販売量 (百万m ³)	622	1,413	610	1,443	12	+29
ガス売上高 (百万円)	18,503	43,539	18,450	44,444	53	+904
国産ガス販売量(百万m ³)	518	1,155	495	1,141	23	15
国産ガス売上高(百万円)	15,320	35,170	14,812	34,551	509	620

本資料における「国産天然ガス」の販売量及び売上高は、連結子会社日本海洋石油資源開発㈱からの仕入販売分を含む、当社単体決算の数値を記載しています。

- 都市ガスおよび産業向け販売は増加を見込む
- 電力向け販売はやや減少を見込む



前年比で販売量は29百万立方メートル増加を見込む

07/3期損益変動要因

単位:百万円

	06/3 通期(a)	07/3 通期(e)	増減
売上高	138,796	123,910	14,886
売上総利益	61,362	57,512	3,851
探鉱費	9,677	9,320	358
販管費	24,666	27,797	+3,130
営業利益	27,018	20,395	6,623
営業外損益	4,172	4,525	+353
経常利益	31,190	24,920	6,270
特別損益	24	980	956
法人税等	9,294	5,689	3,606
少数株主利益	1,655	1,010	646
当期純利益	20,216	17,242	2,975

営業利益の主な増減要因

国産原油販売	+9億円
ガス販売	+9億円
原油ガス売上原価増	33億円
国内探鉱費減	+24億円
海外探鉱費増	21億円
販管費増	31億円
ジャワ石油	23億円

増減要因の説明は、増益要因を+、減益要因を-で記載。

油価及び為替の前提

	07/3期	
	中間(e)	通期(e)
原油CIF価格(\$/bbl)	60.00	60.00
為替(Yen/\$)	110.00	110.00

油価が\$1/bbl上昇による利益増加額(参考値)

営業利益	500百万円
経常利益	500百万円
当期純利益	325百万円

注 ビチューメンの販売価格は通常の原油価格とは異なる動きを示すことが多いため、オイルサンド事業に関する油価変動の影響は、ここに示した数値には含まれていません。

為替が¥5/\$の円安による利益増加額(参考値)

営業利益	1,200百万円
経常利益	1,200百万円
当期純利益	750百万円

注 為替変動の影響に関して、左記に示したものの以外に、当社及び連結子会社の保有する外貨建金銭債権債務(ヘッジ会計適用分を除く)の為替レート換算差額が発生します(各四半期末毎の評価差額を営業外損益に計上)。